

暮らしと社会の「安心・安全」を実現するために

日頃より「日立評論」をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。「2006年度 日立技術の展望」をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

1918(大正7)年の創刊から87年目の昨年2005年は、日立評論の歴史の中で大きな節目となる年となりました。日本の製造業が発行する定期刊行物として前例のない通巻一千号を迎えた5月号では、「技術立国・日本の復活」をテーマに、日本を代表する各社から研究開発部門を統括される方々をお招きした記念座談会や、日立が誇る5名のフェローによる記念寄稿などを掲載し、「創刊一千号記念特別号」として発行いたしました。

そして11月には、米国マサチューセッツ工科大学名誉総長のチャールズ・M・ヴェスト博士をお招きして創刊一千号記念フォーラム「Innovate the Future—次世代イノベーションが拓く新しい世界」を開催いたしました。日立評論をご愛読いただいている皆様、そして日立グループが日頃からお世話になっている皆様とともに明日の日本と科学技術のあるべき姿を考える契機として企画したこのフォーラムには、ヴェスト博士のほか、月尾嘉男東京大学名誉教授、黒田玲子東京大学大学院教授、

古川勇二東京農工大学教授、日立から日立総合計画研究所の藤原作弥社長、小泉英明フェローと、各界を代表する有識者の方々にご出演いただき、ご来場の皆様から多くのご好評をいただくことができました。フォーラムの様様につきましては、本号と合わせて発行いたします講演録をご覧くださいければ幸いです。

2006年を迎え、将来に目を転じると、私たちが挑戦しなければならない地球社会の課題は山積しております。例えば、地球環境問題をはじめ、テロや災害からの安全対策、さらに人口の高齢化に伴う健康維持や快適性といった生活の質的向上など社会のニーズは高まるばかりです。

また、7月のロンドン地下鉄テロ事件、8月の米国・ニューオーリンズの町を水没させたハリケーン「カトリーナ」、10月のバリ島爆弾テロ事件、数万人規模の死傷者を出したパキスタン地震など、昨年後半だけでも全世界を震撼させるような災害や事件が多発しております。

21世紀の今日、ひとりひとりの暮らしと社会における「安心・安全」が最も強く求められていることが肌で感じられますが、こう



した新たな時代の要請，社会からの期待に対し，最先端の科学技術を活用し，解決していくことが，私たち日立グループの最大の使命であると考えております。そして，社会インフラの分野はもとより，エレクトロニクス，IT，バイオ，ナノテクノロジーなど，幅広い技術と知識を融合して新しいソリューションを提供していくことを目指しております。

現在，進展の最中にある「ユビキタス情報社会」は，インターネットや携帯電話を使ったネット販売やSCMシステム，遠隔監視ビジネス，食品のトレーサビリティシステム，証券や銀行のネット化，そして放送と通信の融合など，社会のさまざまな分野のIT化が急速に進展している時代であります。私たち日立グループが掲げた事業コンセプト「uVALUE」は，そうした時代が求める価値創造ソリューションに外なりません。

日立グループは，過去約一世紀の間に，多くの産業分野での実績を重ねてまいりましたが，21世紀に入り，さまざまな産業が，技術的あるいは事業的にシナジー，融合によって次々と新しい産業へと生まれ変わりつつあります。こうした新しい産業創出のプロセスで，日立の幅広い技術と知識が活かされ，「日立に

しかできない」，「日立だからできる」という新しい価値の連鎖が生まれていくものと確信しております。これがまさしくコーポレートステートメント「Inspire the Next」の意味するところであります。

日立は2010年，創業百周年を迎えます。時代の大きな変革期にあって，日立は再び総合電機という自らのアイデンティティに立ち返り，技術を通じて世界に貢献する企業グループを目指し，絶えざる自己改革に取り組んでまいります。

創刊一千号を機に新たなスタートを切った日立評論の誌面を通じ，次の百年を創るために生まれ変わる私たち日立の挑戦を感じ取っていただければ幸いです。

日立製作所
取締役 執行役社長

佐山悦彦

